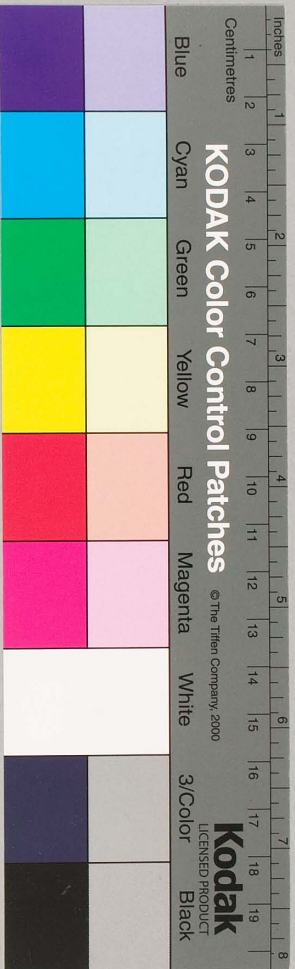




0374



都林泉名勝圖會

五

291.6209

Ak

5

都林泉名勝圖會卷之五

目錄

嵯峨小督隱家
七老亭
龜山
同寶品虫干休
後苑
大井川二船津遊
宗祇齋
定嗣卿古蹟
桂川船遊
初卯齋
泉之坊
櫻櫛坊

亭子院
龜山院
雲居庵
真乘院
嵐山花盛
道令法師趾
桂里園林堂
男山
安居頭
松蒼堂
山下金剛院

天龍寺方丈
同十景
妙智院
龜山殿舊蹟
法論古十二齋
兼室西方寺
清原元輔家
放生會式
龍平坊
萩坊
淀登巨庵蹟



山崎如意庵
芝山の水鉢
陽泉亭
糸屋孫生興

茶室
山崎珠跡
不取城
藤屋月興
秦樓亭

袖招松
相應寺古蹟
孫生花家
角屋雪興
田龍松

都林泉名勝圖會卷之五目錄終

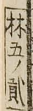
小僧局ハ橋畔ハ地言
成龍の女ハ平相國
支の美人ハ平相國
清盛ハ妻ハ後藤中
為徳ハ妻ハ何妻の
老母ハ後藤中ハ
想主戀の曲ハ彈ド
ウハ官人仲國
帝の侯ハ
月の光ハ
樓ハ後藤中
後藤中ハ
ウハ師贖
琴ハ敵
神明ハ通
白鶴の羽
比さん



大井川

三の
舟

御遊



あふ



三舫賞春詩序

寬政十年歲在戊午時值仲春日期念八
連朝淫雨新霽西堰櫻花盛開偶聞伶官
名工泛舫賞春因促羣賢緒子追踪從行
並皆不詩則倭歌不書則丹青聚合眾能
併成三舫仰芳於嵐嶺沂舟于桂河棹分
碧潭之花影攬曳青崖之苔香清樂交奏
雅詠時間用助文藻之妙思觴酌互勸笑
謔屢聞以適歡娛之逸致跡誠同道長材
或遜經信良會雅屬佳期多違悅芳濁之
韋繼恨遲景之易沒顧雖昔賢難同茲懷
耳既分律韻得七陽以寓鄙情于八句云
翠嶂風開雲夢香山陰景轉碧川長四

林五十三

清興聞絲竹三舫歡情見羽觴霞逐曲聲
依幕落波隨醉態向舫狂昔賢勝蹟今安
在回首春天惜夕陽

平安皆川愿題

此乃日ささるりなり
寫本
成元

以詩文供圖之生及多宗之自其此神後が風おされを得るをうか想ふのこ
誹諧漢和表六句賦差我名所和陽韻賞嵐山花

嵐山嶺櫻花擁三舫
子銘も猿を依るを
詩成大堰陽冬燎
歌詰橋色彩更長
吹あけ藤の馬場お存居て
小智のりともみ那や流の満
離者



岡山愛宕國師
伽藍の座中へ



林五ノ五

大龍寺

下條御六年の御願ふあり
五山の其一あり

此方丈の林泉は岡基愛宕國師に

伽藍の龜尾のありて大堰川戸難瀬と名中の莊といふ所の
妙境の山門と名明窓と名集瑞軒の蓮化と曹源と名松と名の
藤と名水脚通と名炎暑と名個と名松洞と名の南に松林あり
龍門寺へ多宝院ありて戸難瀬の向ふに八幡名所ありて妙智院の
座中の僧良策者の造るて人々明く其時角倉宗柱と父あり
通るが事と悲願う以の碑ありて集瑞軒の方丈の書院と名

て竜の方丈の集瑞軒より名のありての日
ありてのありてのありてのありての日

伽藍集

石よりあるたのやもゆるありて山松と名ありてのありて

愛宕國師

室庇庵鎮守八幡宮と名絶唱溪と名ありて名二級巖戸難瀬
二曲ふる龜頂塔と名の巖ありて嵐山の峯と名ありて鎮と名ありて六井の
橋と名度月橋と名
之橋圖云龜山殿のありて路ありて今この橋より上
を所計へ已上當山十境岡山愛宕のありて
宜竹集
八万三千戸於波心
架七十二丈橋於硯底
有水皆月
未嘗何虹

天龍寺什寶於客殿虫干圖

南西向 陶山前藏

袈裟白地古金襴
金地二重蔓大牡丹

袈裟丹地窟田

袈裟紗 震旦楊岐禪師所持
歷十七世夢窓國師傳來

袈裟紫地銀襴 國師天龍寺供養
時賜紫衣

南東向 西側 墨蹟類

國師空谷二大字 一文家萌雲

國師笑山日

國師春屋日 中茶

同頌日 一文家茶地

南東向 北側

默翁頌中字 模物
一文家茶地牡丹

圓光經文

梵音閣頌一文家紫地紗
中白地小牡丹

北叟頌一文家
紫地紗

垂楊頌

宋船綱司頌

南禪退院頌

平田頌一文家
白地大牡丹

南東向 南側 陶山墨跡

十願文二幅對

和菴主頌

應無雨生二幅對

飛空鳥二行 卍書

日本拜頌三行 物

修多羅教細字 橫物

宸翰案文模物

同 東側

陶山

御手狀種竹和韻

鐵舟墨蹟

三尺黑蚊 模物
和風 二幅

以松名も
 美空玉作
 の館の
 庭に
 之



天龍寺
 雲居庵

嵐山



天龍寺
塔頭
妙智院
林泉

策彦和尚
所作



鹿山

策彥和尚
開山堂



三竜塔頭
真糸院
林泉



細川
三齋翁
所建



大井川の二船とて白河院為川大井川の二船とて白河院為川一多ふり香の時時詩寄管絃
の二の船とて深く其なる人々をきく事なれに神民部卿經信卿
運泰の間をの外に御氣をいふる程ふさうなうてきてきたり
ろろ二事ある人あくひひはつたてやぶの事なれりありや
いふれける時ふりていふるやういふる事なれり運泰せられ
にちきりく後経の舟ふきて詩寄を載せられろろ事なれ大堰川乃
この船の御遊とて大鏡ある十訓抄ふさう才能の部に載られろ

本朝文粹

寛弘秋泛大井河各言所懷和歌序
竹山弘之歳秋九月蓬遠侍臣二十輩合宴
標於戲詠沙鷗與鷺鸞之近紅葉與綺紛
有年也海之無事興今偏日之情不親遊之
詩者翰林主事攝州刺史盡水陸珍物以
今者靈夢之有八花鳥之思暮記日風
難一若靈夢之有八花鳥之思暮記日風

新抄

後漢

後古

王蒙

後漢

後漢

後漢

後漢

後漢

後漢

後漢

後漢

後漢

後漢

後漢

後漢

後漢

後漢

後漢

後漢

後漢

後漢

後漢

後漢

嵐山

大井川の南にあり大堰川へ通ずる中極多し
松の盛み都下の驛人々小遊樂に
松の仙洞小若堂山の極とありてあり

後古

後古

後古

後古

後古

後古

後古

後古

後古

後古

後古

後古

後古

後古

山嵐集

城西三里是嵐山二十年來百往還
人已數莖新白髮花猶一笑舊紅顏

瑞漢

季恩

定家

後成

寂蓮法師

太上天皇

宰相公明

茶園白

岩道

[illegible]

大井川

清流奇石絶紫
弯隈香魚往
復還忽有漁舟穿
峡下駐篙蹙破水

子共
松
十
全
山

中山
六如菴

中和

大堰川上春澹沱宿雨新
 雲花正影山岑千
 轉撩人微遊人傾城狂無那一輛草履一枝
 蓀我六村店買白墮醉來益覺興激昂松枝
 挂巾石上坐真箇移得罨畫溪曲都被彩
 雲裏南岸花與小岸對新落春酒相映暖鴨
 嘴之灘燕尾沙青慢碧毯一隊細馬公子
 按玉羈畫舫佳人唱竹枝蝶淚濃香縷紅袖
 莫啼艷雪點金卮少頃初月破煙濛流光赴
 花君不見崑山昔日種花辰山容學成芳野
 春來未去菜園落今人行樂嘆古人不知
 今春也電過風偏雨慙一夜莖

嵐山觀花歌

橘洲畑植



阿比山
花書

花
對

はの
うみ山
なみし

月夜

宗祇法師舊唐

法橋の甫三所詳かあり其地あり法師の古跡なり

磧礫集

宗祇法師法橋のゆかりの地を尋ねて

あつた野別常縁とていなる所なりあつた月夜のそとへかやと見えく
まむく立つたる宗祇とていなる所なり宗祇の所つたる

とあふんくさふんおつた山里のそとへあつた芳乃を

常縁

道令法師蹟

道令法師の蹟なり今藤田道綱卿一男なり

王系

乃今法師の蹟なり今藤田道綱卿一男なり

法をせしむるなり今藤田道綱卿一男なり

赤松集

兼室西芳寺の林泉

兼室法師の蹟なり今藤田道綱卿一男なり

と土石の運び共ふなり今藤田道綱卿一男なり

の跡之助とてなり今藤田道綱卿一男なり

聖武帝之年中行基大士の所創なり今藤田道綱卿一男なり

極越と成る愛窓國師とて

西芳精舎小所なり今藤田道綱卿一男なり

兼室集

極越と成る愛窓國師とて

あつたるなり今藤田道綱卿一男なり

竹林院

兼室法師の蹟なり今藤田道綱卿一男なり

兼室

自集

心あつたなり今藤田道綱卿一男なり

同

兼室集

忘れかへしなり今藤田道綱卿一男なり

園田集

松と申くぬこなり今藤田道綱卿一男なり

二条抄

新勅

心あつたなり今藤田道綱卿一男なり

兼室集

定嗣卿山莊古蹟

兼室小なり

著聞集

兼室法師の蹟なり今藤田道綱卿一男なり

舟の
や
う
な
船
二
柳



桂川
舟
宴



男山

雄德山と書月一名ハ幡山或ハ鶴嶺又斎爐岩とも
山峯ハ幡宮立せり石は水の長泉なり

男山ハ幡宮ハ幡宮立せり石は水の長泉なり
仲夏

ハ幡宮ハ幡宮ハ幡宮立せり石は水の長泉なり
後集極

ハ幡宮ハ幡宮ハ幡宮立せり石は水の長泉なり
漢金右食

ハ幡宮ハ幡宮ハ幡宮立せり石は水の長泉なり
漢金右食

ハ幡宮ハ幡宮ハ幡宮立せり石は水の長泉なり
漢金右食

ハ幡宮ハ幡宮ハ幡宮立せり石は水の長泉なり
漢金右食

ハ幡宮ハ幡宮ハ幡宮立せり石は水の長泉なり
漢金右食

ハ幡宮ハ幡宮ハ幡宮立せり石は水の長泉なり
漢金右食

ハ幡宮ハ幡宮ハ幡宮立せり石は水の長泉なり
漢金右食

ハ幡宮ハ幡宮ハ幡宮立せり石は水の長泉なり
漢金右食

ハ幡宮ハ幡宮ハ幡宮立せり石は水の長泉なり
漢金右食

ハ幡宮ハ幡宮ハ幡宮立せり石は水の長泉なり
漢金右食

ハ幡宮ハ幡宮ハ幡宮立せり石は水の長泉なり
漢金右食

ハ幡宮ハ幡宮ハ幡宮立せり石は水の長泉なり
漢金右食

ハ幡宮ハ幡宮ハ幡宮立せり石は水の長泉なり
漢金右食

ハ幡宮ハ幡宮ハ幡宮立せり石は水の長泉なり
漢金右食

ハ幡宮ハ幡宮ハ幡宮立せり石は水の長泉なり
漢金右食

ハ幡宮ハ幡宮ハ幡宮立せり石は水の長泉なり
漢金右食

ハ幡宮ハ幡宮ハ幡宮立せり石は水の長泉なり
漢金右食

ハ幡宮ハ幡宮ハ幡宮立せり石は水の長泉なり
漢金右食

ハ幡宮ハ幡宮ハ幡宮立せり石は水の長泉なり
漢金右食

ハ幡宮ハ幡宮ハ幡宮立せり石は水の長泉なり
漢金右食

ハ幡宮ハ幡宮ハ幡宮立せり石は水の長泉なり
漢金右食

ハ幡宮ハ幡宮ハ幡宮立せり石は水の長泉なり
漢金右食

ハ幡宮ハ幡宮ハ幡宮立せり石は水の長泉なり
漢金右食

ハ幡宮ハ幡宮ハ幡宮立せり石は水の長泉なり
漢金右食

ハ幡宮ハ幡宮ハ幡宮立せり石は水の長泉なり
漢金右食

昭
宗
家
故
居



八幡
泉
坊





松花堂全圖



林五十二

覆書集 悼南山松花堂

此老從來與俗殊自工草隸得規模
珠浮夢覺歸空界聲價爭傳水墨圖

其外樓櫺坊也昭素翁之樓也今所之書院之花多其畫ハ永徳の筆ハ
松花堂の書画多ク又山下金剛院の客殿の画ハ永徳の筆ハ

松花堂の書画多ク又山下金剛院の客殿の画ハ永徳の筆ハ
松花堂の書画多ク又山下金剛院の客殿の画ハ永徳の筆ハ

山崎妙意菴

妙意庵住慧峯南宗寺書院の主人物山水の画ハ永徳の筆ハ
同裏山水同筆床張附画松戸裁庵松齋裏中

茶室 併後側小あり利休居士の營む所也
二幅窓目四方鏤壁

袖摺松 茶室の側あり利休の時秀吉公茶興一由
袖ハ松の葉を模して茶室ハ茶の味を中ふあり芝山と

芝山の水鉢 茶室の床を中ふあり芝山と
銘を隠形に

合此五十石茶土産一由今も茶を賜ふと我々一

山崎城 相應寺

土佐日記

天王山の麓にあり初め山崎赤松等築く所の城也之正永中
 豊太閤の御老考と合戦あり
 相應寺は藍田より三代實源頼朝國史に見ゆ後世頼朝一々今
 頼朝八幡の東に小堂あり茶師仲と安土土人新堂といふ
 寺といふ一室のみ東のくく山の下にやまるといふ人ふ八幡の
 末の寺といふやうな寺あり今とふちとあてやうに山崎の橋を
 うれした寺といふかゝるに相應寺のほくらみそやみそを
 とうとうむる寺ありはちのなれやうふ柳おほくありあふけ
 柳のけの川に庭にう川まるといふ寺

今昔物語

山崎小相應寺といふあり其寺小堂演の僧住たり此寺は俗史
 内舎人中長正棟とをさるる寺の西に小堂あり道念發
 出家して後池邊の宮に申する人の弟子といふ寺に渡る
 真言宗受習し法に修りたる寺不思飯朝し後彼
 相應寺に住し真言の行法を修る



妙意菴
 茶室
 袖招松


妙喜菴中懷古像
 弟宿覺和尚絶茶烟
 唯餘老衲肩如霜
 久説豐公臨至年
 卅廬

枕招松
 松老也
 孤子の袖も
 こゝれきゝ
 山

陽泉亭



中和

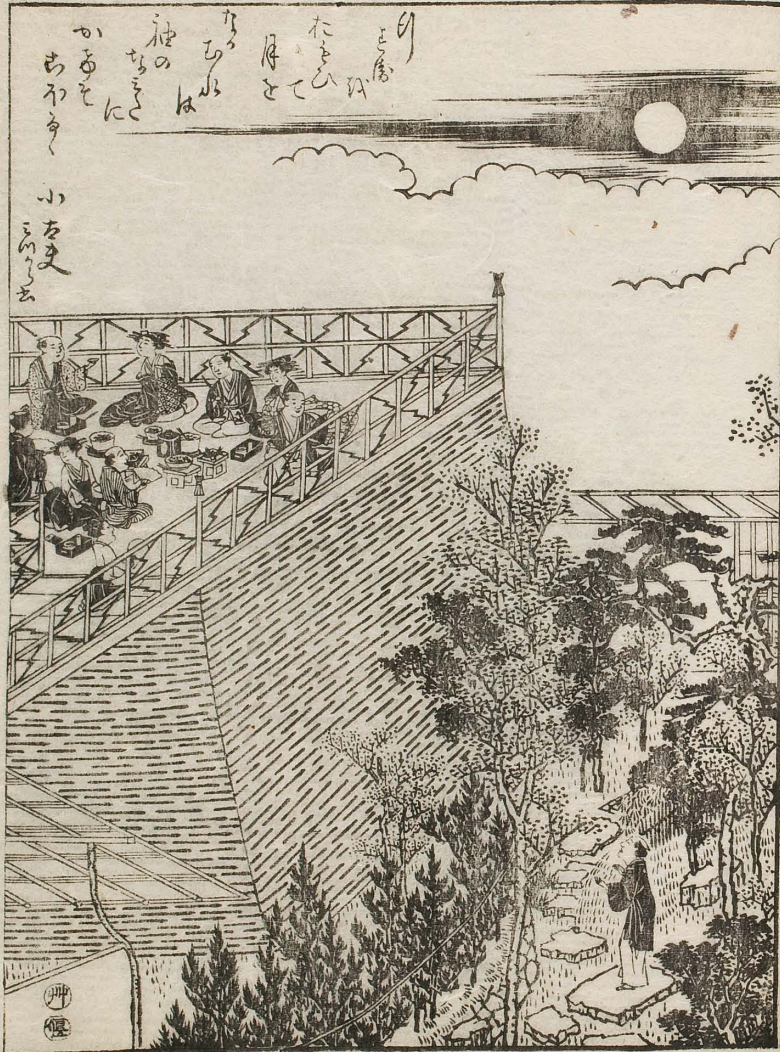
あるはるの
くさね
つらね
まね

とろろ
ほんざも
うめお
ふゆあに
あき
いへ
むせ
すみれ
あつた
八十二歳
登月





同所
藤屋
月興

奥をふ茶亭あり
茶田の畔あり月小
茶所名家の書画を鑑み
け亭より茶壺やと
兄通し風系
紳士の
鐘



月興
茶田の畔あり月小
茶所名家の書画を鑑み
け亭より茶壺やと
兄通し風系
紳士の
鐘

小
右
文
三
角
云



都林泉名勝圖會跋



六条河原院乃わづなを隔て古事とて常々いふるを
とて居る趣もやと云ふ所の源順は人物のわづなを煙臺を
かりて當時世にあつた所にも風俗改つてあつて賦せらるゝ
其煙臺風俗も名勝なりと離るる岩れ古事蹟の橋を
いふへをきかぬかたなりと云ふ思ふ

寛平法皇乃高子院の南園中川のわづなをいふ上東門院の
わづなをいふ水鳥の霧宮系主輔親のつゝ橋をいふ唯
名のわづなを悲しむれん今こゝかの遺る所をいふ

満ちて畫をいふかたをいふたかたはなすの目と都林泉図會といふ

若菜國師の石の漱きぬれ枕のわづなをいふ相阿弥の海山と中納言

僧家の乃自在の殿のわづなをいふのわづなをいふ海山と中納言

法寺のわづなをいふのわづなをいふのわづなをいふのわづなをいふ

林泉の図會といふをいふのわづなをいふのわづなをいふのわづなをいふ

訪尾のわづなをいふのわづなをいふのわづなをいふのわづなをいふ

寛政十二載仲夏

平安

秋里心齋山翁

烟夕



畫工

法橋佐久間草偃



法橋西村中和



奧文鳴源貞章



京都

吉野屋爲八

江都

須原屋善五郎

浪速

河内屋喜兵衛

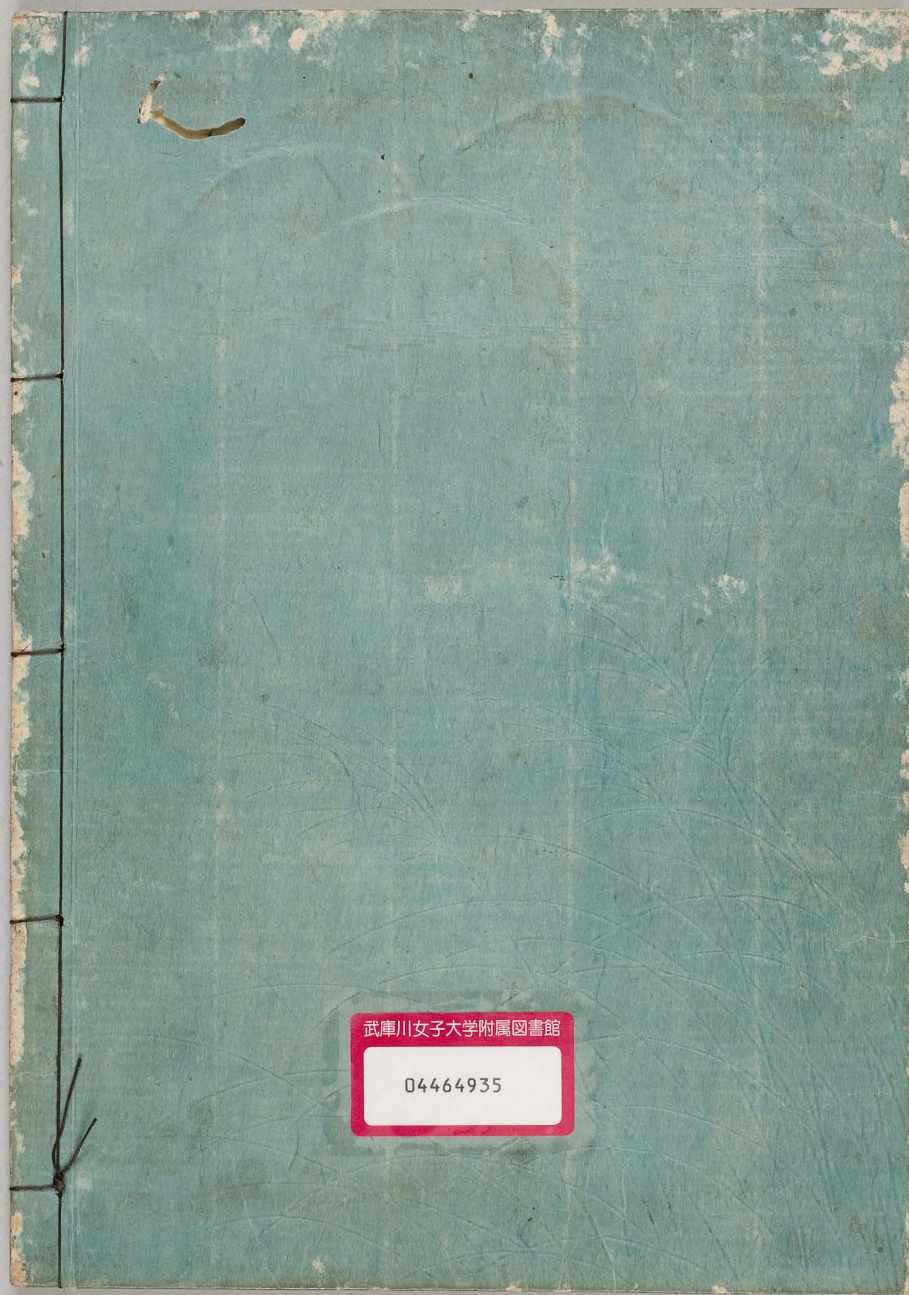
河内屋太助

寛政十一^巳未歲仲夏發行

六角通御幸町西^江入町

皇都書麿

小川多左衛門梓



武庫川女子大学附属図書館

04464935